

附属学校



1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナースhipで目標を達成しよう



附属幼稚園 捨ててしまう前に遊んでみよう 「あるあるコーナー」の取組

附属幼稚園

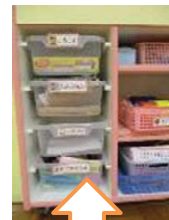
教育



空き容器を親子
で持ってくる
回収の箱



みんなが使える
あるあるコーナー



色紙、画用紙
まだつかえるよ

【活動概要】

附属幼稚園では、家庭と協力して、空き容器を回収しています。子どもたちが食べたお菓子の箱やペットボトルなどの空き容器を登園時に親子で持ってきて、回収の箱に入れます。子どもたちが使いやすいように、保育者がそれらの空き容器を「あるあるコーナー」に分類して置きます。この「あるあるコーナー」は保育室前の廊下に設置されていて、すぐに使うことができます。子どもたちは、発想豊かに、空き容器を使って様々な遊びを展開していきます。また、各保育室では、画用紙や色紙などまだ使用できる物は、子どもたちで判断して「まだつかえるよ」の箱の中に入れます。「もったいない」「すぐに捨ててしまわない」そんな気持ちを育んでいきます。

子どもたちの物作りや遊びは、家族を巻き込み、自然と資源の有効活用に取り組む姿につながっています。



お菓子の箱で
バッグを作ろう



ペットボトルに
色水を入れよう

いろいろな遊び
考えられるね



新聞紙のプール・ドレス



段ボールで車づくり

【担当】松川智子（附属幼稚園）

附属中学校生徒会 ～社会に貢献する附属中学校に向けての取り組み～

附属中学校

教育



【活動概要】

現生徒会執行部は、社会に貢献する取り組みを、委員会活動等を通して行いました。一部を紹介します。

○執行部・有志

「ボランティア活動『砂丘一斉清掃』」《11・15・17》

→鳥取砂丘レンジャーと連携し、執行部員が鳥取砂丘について学びました。そして、全校へ呼びかけて有志を募り、除草活動を通して地域資源の環境保全に貢献しました。

○マナー向上委員会（執行部・有志・委員会生徒）

「マナーアップ活動」《11・16》

→公共マナーを広める登下校改善活動を行っています。公共の場での自分たちの行動を振り返り、地域との共生を念頭に置いて、公共マナーの向上を図っています。

「あいさつ運動」《3・16》

→あいさつ運動を通して学校を元気にしたいという思いから、有志も募り、あいさつ運動を行っています。

○給食委員会

「完食ビンゴ」《2・3・12》

→クラスごとに、その日完食するメニューをきめ、学級ごとに完食を目指す取り組みを行いました。完食するメニューは、ビンゴの表に記入されていて、完食するとビンゴが完成します。

○福祉委員会

「朝掃除ボランティア」《3・11・12》

→掃除を通して、誰もが気持ちよく過ごせる環境作りを目指したり、誰かのために進んで活動できる気持ちを育むため、活動を行っています。

今後も、各委員会活動などを通して、SDGsの取り組みを計画していく予定です。



【担当】鳥取大学附属中学校生徒会

教育



【活動概要】

中学部では鳥取県ユニセフ協会に依頼をしてユニセフの活動についての学習を行っています。出前授業では主に、困難な状況に置かれている子どもたちのことや、ユニセフの支援活動について学習します。栄養が足りずに病気になったり、学校に行くことができなかったりする子どもたちが存在する世界の実情を知って、生徒たちは驚き、自分たちにできることがないかと考える生徒もいます。

講師の一人でインドの小学校への支援活動を行っておられる「イッポラボ合同会社」の田中さんに協力をいただき、1月にランドセル寄付の活動を行いました。2、3年生で分担してチラシやポスターを作成し、校内や附属中学校に協力を呼びかけると、短期間にもかかわらず60個のランドセルを集めることができました。寄付したランドセルは、早速一部が3月にインドへ渡っていきました。

令和7年4月には寄付先のインドの学校から校長先生が来校され、生徒たちは、実際にランドセルが渡っていった様子や、ランドセルを受け取って喜ぶインドの小学生の姿を動画や写真を通して知ることができました。「自分たちにできることを」と取り組んだ生徒たちがやりがいを感じた瞬間でした。



作成したチラシ



話し合い



ランドセル寄付



ユニセフ出前授業
「箱の中の学校」



インド校長先生
訪問

【担当】山口 綾乃（附属特別支援学校）